

令和2年度 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 運営委員会
開催レポート

公益社団法人日本観光振興協会が事務局をつとめる「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」は、令和3年3月4日（木）にオンラインにて「令和2年度 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 運営委員会」を開催いたしました。本年は新型コロナウイルス感染拡大防止と参加者の安全確保の観点から、オンラインでの実施となりました。

運営委員会では、令和2年度事業概要をご報告しました。また令和3年度事業については、運営委員の皆様よりご意見を頂戴いたしました。

【関係資料】

- ・ 資料 1-1 令和2年度事業概要報告
- ・ 資料 1-2 「令和2年度酒蔵ツーリズム調査結果」報告
- ・ 資料 1-3 「ツーリズム EXPO ジャパン旅の祭典 in 沖縄」報告
- ・ 資料 1-4 「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」受賞報告
- ・ 資料 2-1 令和3年度事業

令和2年度事業概要報告

(1) 酒蔵ツーリズム調査事業、(2) 研修事業、(3) プロモーション事業、(4) 協議会自主事業を実施しました。

なお本年度事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により「プロモーション事業」の一部が変更となりました。

(1) 調査事業

令和2年11月16日～12月25日に「酒蔵ツーリズム調査」を実施。各酒蔵・自治体などが現在抱えている課題や問題等を明らかにした。また今後の協議会の活動方針の参考としました。(詳細：資料1-2)

(2) 研修事業

上記アンケート結果をもとに研修会を開催（令和3年3月4日）。酒蔵ツーリズムを活用した取り組み事例も紹介しました。

(3) プロモーション事業

オフィシャルサイト及びFacebook・Twitterで酒蔵関連の情報発信を行いました。また新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、「ツーリズム EXPO ジャパン旅の祭典 in 沖縄」へ泡盛ブースを出展しました。(資料1-3)

(4) 協議会自主事業

会員相互交流、情報交流機会の提供など、酒蔵と各事業者との協力関係の促進を行いました。各省庁への協力も実施しました。

令和3年度事業

令和3年度事業の実施にあたり、運営委員の皆様よりご意見頂きました。一部意見を共有させて頂きます。

- こういった状況だからこそ、酒蔵・酒造関係者、観光事業者の意欲を盛り上げる事業に取り組んでほしい。(一般企業)
- 2020年2月に開催した「晴れの酒、花の宴。」は、酒蔵・酒造関係者に大変好評だった(資料1-4)。日本酒における「有形」「無形」文化を組み合わせ、ツーリズム視点で情報を発信ほしい。(一般企業)
- 開催を予定していたイベントが中止。ツーリズムのあり方を1から見直す必要がある。(行政)
- コロナ禍で客層が変化。これまでの団体客から個人客に変わった。お酒販売することはもちろん、周辺商品とセットにし、今のニーズに応えられるようにするべき。(酒蔵関係)

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 年会費

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、令和3年度も令和2年度と同様に年会費3万円から1万5千円で検討しました。

- 現在は企業会員が多いが、個人会員(もしくは賛助会員)を増やす。
- 会員を増やす取り組みを行ってほしい。

令和3年度に入りましたら、「令和3年度 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 総会」の開催も予定しています。運営委員の皆様のご参加をお待ちしています。

日本酒蔵ツーリズム推進協議会は、各都道府県等の地方自治体、観光協会、DMO、観光関連団体・企業等と酒蔵が一層連携することで、酒蔵ツーリズム事業の継続・発展を目指してまいります。引き続きのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。